



# 岡山市役所新築！ 19階建243億円

大森岡山市長は、10月23日、老朽化している岡山市本庁舎を改修でなく建替えて整備する方針を発表しました。

現庁舎(地上9階地下2階)は、1968年完成で、震度6強の地震で倒壊の恐れがあるとされています。8月にまとめた市民アンケートも参考に、保健福祉会館にある防災拠点機能、北区役所、現在は民間ビルに賃借している機能の分散化を解消し、新庁舎に集約するとしています。

建替え判断は80年間のライフサイクルコストを考えて決定し、19階建、243億円の概算工事費を提案、場所は現庁舎敷地でなく、隣接の大供公園や鹿田駐車場の敷地を検討、2025年完成を目指すとしています。

## 行政サービスより建築コストが優先？

アンケートで行政サービスの向上、業務の効率化、誰もが訪れやすく、使いやすいユニバーサルデザイン、防災拠点としてなどが出されています。市長は、北区役所は本庁舎と一体が便利と言っています。現在ある御津支所や建部支所は、新市建設計画や新市基本計画終了までの設置とされています。支所機能がなくなると、産業建設課で扱っている工事はもちろん、介護保険や保育園の入園申請などの子育て支援など、保健福祉機能もなくなってしまいます。したがって、北区役所(大供の本庁舎)まで出てこないで、各種手続きができないこととなります。御津や建部では市民サービスが著しく低下することとなります。年度内にまとめる市役所整備基本構想は、当然これらの行政サービス確保のために、区役所・支所等をどう再編するかを踏まえたものにならなければなりません。

参考メモ 岡山市今年度当初予算三千七百七十二億円

## 新市民会館取得費、上限235億円

2022年開館に向けて再開発組合から、岡山芸術創造劇場(市民会館)部分を、上限235億円で取得することを、10月29日の市長記者会見で明らかにしました。当初提案の165億円が、建築費増、土地関係費増等で201億円になり、舞台関係費34億円を加えて235億円との説明です。財源の合併推進債は、後に50%は交付税での償還がありますが、残りは岡山市の借金となります。

235億円という本来なら、競争入札の対象となる巨額の事業費です。全国の類似施設と比べて、妥当な額であるという説明が必要です。

市民文教委員会では、基本設計であり、変更はまだできること、今後設計支援委員の意見ももらうことになっていることを確認しました。大スタジオや大中小の練習室もステージとしても利用できること、床は檜を使うこと、楽屋の大きな鏡についても検討することでした。

財源として使う合併推進債は、事業完成が2021年度という条件があります。「地権者同意の状況は」との問いに、市長は「各権利者と組合で当たっていただいでスムーズな工事に入っていただければいいなと思っています」と答えています。担当課は「大半はスムーズにしているが、改めて話を進めていかないといけないところがある」とのことで、2021年度完成に間に合うのか、取得費がさらに上昇しないかなど、注視しましょう。

### 下市このみ事務所からのお知らせ

- ▼11/23(金・勤労感謝の日) 第11回秋の親睦旅行  
「みかん狩りとしまなみ・今治タオルめぐり」
- ▼11/27(火) 映画会「永い言い訳」10:00 下市事務所
- ▼11月定例市議会 11/30(金)～12/18(火)
- ▼12/2(日)地域を活かす農業と食の安全  
10:00～12:30 東公民館

労働相談なんでもライン / TEL&FAX 086-270-5350 / 相談無料・秘密厳守